第 20 号(2015 年 7 月号)

2015 年 7 月 1 日発行

あらき通信

(株)アラキ工務店　編集・発行　村上 幸男

〒615-0906 京都市右京区梅津高畝町 52-2

Tel 075-882-8668 Fax 075-872-0223

http://www.kyoto.zaq.jp/araki/

info@kyoto-kozai.com

梅雨明けの気持ちがいい季節です、休日はいろいろとお出かけになられる事と思いますが、暑さになれない体で長時間の屋外活動は、熱中症を起こしやすいと聞きました。年配の方や小さな赤ちゃんは要注意です。

今年に入り、会長が引き受けていたいろいろな会合やグループの集まりや集会に、会長に代わり出席しようと決め、実行しています。京町家作事組、古材文化の会、日本民家再生協会などです。

会長の経験と技術には遠く及びませんが、集まりに参加し、各委員さんの御意見を聞き、不明な点は会長に尋ねて少しずつ成長し、皆さんに認めて頂けるように努力している段階です。

知識を得るのは資料や書籍などで、たくさんの量を短時間に吸収することは出来るのですが、様々な持ち場で活躍されている職人さんのノウハウは、どこにも書いてない事が多々あります。

いろいろな会合に出席すると新しい発見がたくさんあります。「お！そんなやり方があったのか！」とびっくりする事もあります。

今まで会長に教えれられてきた事だけでなく、同業他社さんのノウハウも吸収し、よりよい職人集団にしていけたらなぁと思っています。

先斗町の床も痛んできたので部分々での改修です。

今年新しく補修した桧も、一年経てばその他の材料と同じ色にくすみます。

去年は少し床を広げ、床のスノコも広げたところは新しいスノコだったのですが、見事に色が揃いました。

真夏の太陽と雨の力は強いな～と感じる季節です。

鴨川納涼床　手すり→

建築工事ではない仕事もやっています

御得意先の方より連絡が有り、市街地内の山林の木の伐採をしてほしい、ついては現地の調査に同行してほしいのですがと連絡が入り、見に行きました。

表題にもあるように、市街地の山林の樹木を撤去するには、さまざまな手続きが必要です。自分の山の木だからといって簡単に切れるわけでは有りません。都市計画法内の風致地区内における現状変更行為の許可申請が必要で、実際の工事よりその申請期間のほうが 5～6 倍も長くかかりました。。

まずは許可書の掲示です。
役所の許可工事はこれがないと始められません。まず、入り口に貼り付けます。

これが現状の山地です。
崖のすぐ際にまで樹木が生えています。これが台風等で引き抜かれたり、折れたりすれば下の家を直撃するので、安全のための伐採です。

切り倒す樹木の大きな枝を払います。そして、切る倒す方向にワイヤーロープを掛け引っ張っておきます。

そして一気にチェーンソーで切断。一応思う方向に倒れました。根は抜かずにそのまま残します。抜根すると崖の地盤が緩み、土砂崩れが起きます。

切った跡です。

一連の作業を見ていて、樹が倒れる瞬間の　バリバリドスン　という音が瞬間悲しくて、目をつむりました。
勿論必要な作業で、こうしなければならないのですが、生きているものを切り倒すのは、やはり心が痛みます。
動物にしろ植物にしろ、我々は命あるものを食べ、あるいは使い生活しているのだなと実感しました。

茶室を居室に改修する工事をやっています

この工事は内田康博建築事務所様からのご紹介で設計は内田さんで工事はアラキ工務店です

元は待合が付いた 4.5 帖のお茶室の改修工事です。お茶室として使え、また待合に隣接して浴室トイレ、洗面、キッチンを非常にコンパクトに設けて、ここで短期間なら寝泊りが出来る仕様にしています。私もこれだけコンパクトに納めて 2 室とれている家は初めてではないかと思います。

現状です。
手前が 4.5 帖お茶室、奥が6帖間です。この向こう側にキッチン・トイレ・浴室・洗面所をコンパクトに設置します。

内部は長期間母屋からの置けない荷物の置き場所になっており今回はそれの整理と処分するものは思い切って処分します。

内部は床を撤去し、傾いている建物の修正をし、下っている床を無理の無いところまでレベルに近づけます。
同時に外部の屋根も大修理です。

一通り床下設備工事も終了すれば、床組みも付け直し、また外部の床下換気口代わりにステンレス網を張ります。

屋根瓦下地も全面修繕で、瓦は既に最初に全て降ろし、使えるものとダメなものは選別済みです。当然軒裏の化粧軒裏も全てやり変えです。茶室の屋根だけあって、複雑です。

屋内の天井も古材を使ってあまり既存と差が無いようにしてここの大きな軒裏は、小節の垂木を一部取替えです。

工事完了です。
外部の木製建具の一部はアルミサッシにしているところも有ります。
右側がお茶室で、左側が６帖です。
この更に左に一連の設備が並んでいます。

逆方向からの外観です。
お茶室の縁の雪見障子です。

お茶室の床の間廻りです。
縁の床板も綺麗になりました。

こちらは６帖間です。
物入れも今回新設しました。

キッチン　洗面　浴室　トイレ
驚くほど小さなスペースに、全てキッチリと入っています。とはいえ狭く感じることは有りません。

この襖の引き手は元の襖のものです。
小判型の何の飾りも無いのですがこれが良い引き手で、両面で、襖よりもはるかに高い引き手です。
天井も既存の本網代天井と小舞天井です。

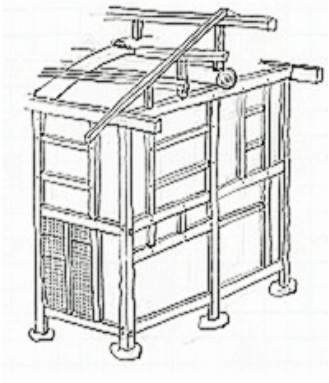
小さい建物ですが良い材料で仕上げられているので、出切るだけ既存の材料を残すことで計画しました。
私も、面積は小さいがこれだけ中身が詰まった建物は始めてです。ありがとうございました。

住まいについてのいろいろな話し　第 16 回

今回は木造住宅を作る場合の、伝統工法と在来軸組工法の違いを、私の経験してきた工事から、あれこれと考えていることを述べていきます。但し、構造力学的なことではなく、大工さんが作業している中から感じたことです。　（皆さんは、これの違いをあまり御存じないのでは）

伝統工法

昔から日本建築での建て方のスタイルで、社寺・仏閣から町家までこの工法で建てられています。これは経験と実績の積み重ねで日本の大工が連綿と継承してきた工法で、口伝や手をとって受け継がれてきたもので、今我々が使いこなしている仕口の造り方や構造の納め方などは完成された技術であると見ています。我々は、この日本の先人の知恵を絶やすことなく伝える事が義務であると思い、技術の継承を心がけ、次世代に伝え人を育てていきたいと思っています。

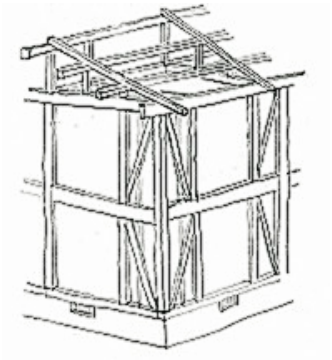


- 柱は礎石又は延石の上に置くのみ
- 壁は貫を入れて小舞下地(竹編)に土をつける
- 柱－梁－小屋組は仕口、継手が組まれる
- 金物は使用しない
- 地震等の外力には揺れながら又は傾きながらエネルギーを吸収する

在来軸組工法

昭和 25 年の建築基準法で木造住宅の構造基準が定められ、この基準に沿った建物を建てるように指導されました。その後大きな地震で甚大な被害が出るたびに基準が引き上げられ、スチール製金物も増えてきました。現在、これに代わる物は無く、今や金物を使わないと、まともな家が建たないような感覚になっています。伝統工法は地震に関しての対抗力は、傾くにつれ、仕口のつぶれや荒壁の際の土のつぶれや割れにより地震の力を吸収消化するのに対し、在来工法は傾くにつれ筋交がたわみ、また折れる、あるいは金物が変形すれば一気に建物は倒壊します。

簡単に言えば、伝統工法は傾くことで力を発揮し、在来工法は真っ直ぐの状態を保ち、つまり変形しない事が力を発揮するといえます。



- 昭和 25 年以後の木造住宅の規格基礎は鉄筋(又は無筋)コンクリート基礎に土台を入れボルトで固定
- 土台－柱－梁は仕口と金物で接合し、壁に筋交(又は合板)を入れる
- 地震等の外力には筋交(又は合板)と補強金物にて変形しないように対抗する

両方併用しても構造的にはなんら問題ないと構造計算の専門家からも聞いています。
どちらの技術も、アラキ工務店の先輩たちから引き継いでいます。

先斗町でもう一つ気になること

先斗町のお得意さんへ行き、ふと足元を見ると、あれ、ここにあった石畳の道路はどうなっているんでしょうか。

この道路の設計は何度か工事をいただいた某芸大の先生で、当時綺麗になったと新聞にも出て、後で「先生良く写ってましたね」などと言って冷やかしたものです。

こんなアスファルトベッタリとは何かの間違いか。

おそらく次の工事が決まるまでの仮復旧なんでしょう。

今年の新入社員です。

西村悠真君です。

高校卒業後、専門学校を卒業して４月に入社しました。

学校で一通りの大工の作業も経験しているので、余りまごつくことも無く、体力的にも今のところ大丈夫そうです。

サテ、厳しいのはこれからです。梅雨から８、９月の中頃までが、体力的に厳しいのですが、皆それを乗り越えて一人前になっているんだから、西村君も大丈夫ですよ。自信を持って。

【本人から】

職人さんから教えてもらうことはたくさんあるので、一つ一つを大切に一人前の職人になれるよう精一杯がんばります！

編集後記

近頃私またバイクに乗り出しています。勿論今までも単なる交通手段としてのバイクには乗っていましたが、バイクに乗ることを目的とする乗り方ではなかったので、もう一度バイクでの楽しさを享受しようと始めた次第です。

思えば始めて単車の免許を取ったのが 16 歳、そのころは原付と自動二輪しかなく、当然自動二輪を取り、最初は古いホンダのスーパーカブ 55cc からのスタートでした。以来単車とは長いつき合いで

現在は、やや大きめの音が出るマフラーで、ぐいぐい走っています。

今年はこれでいいけど、来年は違う楽しい事を探そう。

村上